

中学生 濱田 依紗 （大阪府 14）

「共生」って何なのか、考えたことがありませんでした。そこで私なりに考えを進めてみました。

まず、文字通りに考えれば「共に生きる」。私は以前、クラスメートに、いじめといえるほどではなかったかもしれませんが、いやなことをされた経験があります。私は「いやなことをしてくる人とも『共に生きる』って、なんやねん」と思いました。でも考えてみると、そういうことでもないのだなと気づきました。

「共生」には、好きも嫌いもないのです。それは社会で生きていくために重要な要素であり、そこに個人の好き嫌いをはさんでしまえば、よりよい社会とはほど遠いものになってしまうでしょう。好き嫌いとは関係なく、お互いに支え合い、助け合い、尊重し合うことが、何より重要なのではないのでしょうか。

=====

中学生 寺島 壮亮 （大阪府 14）

私たちは、学校で共生社会の大切さを学びましたが、現実はそううまくはいきません。

私は班長をしています。私の班には、仲が悪く、普段から言い争いをしている2人がいます。この前も班で話し合いをする時に「私はあいつと話したくない」と言って参加してくれないことがありました。説得してもそのまま授業は終わりました。

学校でどれだけ「共生社会を実現しよう」と学んでも、なかなか現実の生活には反映されません。でも意外と、ほかの班員はそんな2人も受け入れて、怒りもしないし見捨てもしません。班長の私よりもうまく2人と関わっています。

そう考えると、「全員が仲良く」とか「全員が助け合って」というのが、共生社会の実現というわけでもないようです。共生社会とは何か、ますますわからなくなりました。

=====

中学生 山田 隆和 （大阪府 14）

ぼくは今、野球をやっていてよかったと思っています。部活ではなく、外の硬式野球のクラブで、いろんな学校から集まってチームをつくっています。「これは違う」「それは合ってる」など、言い合いや衝突が起きることもあります。でも、理由があります。

それは、みんなに、このチームを強くしたい、勝ちたい、という同じ目標があるからこそ、生まれるものなのです。衝突や言い合いがあっても、最後は目標のためにお互いに高め合い、尊敬し合い、団結していくことが大切なのだと思います。

みんなが同じ目標をもって進んでいけば、この日本だって、世界だって幸せになっていくんじゃないか。野球を通じて、ぼくはそう感じました。これからもチームの目標を大切に、練習にも試合にも全力で取り組んでいこうと思います。

=====

中学生 花岡 裕月 (大阪府 14)

私は人と話すことが好きだ。話すことで、お互いのことを知って、価値観を尊重しあうことができるようになるからだ。

過去に団体競技をしていたが、「団体」で衝突が起こることは必然なのかもしれない。ただ、私は衝突が起こること自体は、さほど問題がないと思う。お互いの立場や価値観をぶつけあって理解することが、解決の糸口になるからだ。

また、たとえば身体障害者と健常者がお互いの価値観を理解しあうには、まず話すことが不可欠だ。身体障害者が本当に必要とする手助けについて、健常者は想像することしかできない。健常者が障害者の考えを理解せず、過敏に接してしまうと、障害者に対する偏見や差別意識はむしろ高まるのではないか。まず話して理解することが、本当の共生社会への一歩だと思う。